

すすむし

Vol. 7 No. 3



倉敷昆虫同好会

Nov. 1957

目 次

表紙デザイン	友野 良一
倉敷市福田町産昆虫雑記 (1)	船越 俊平 1
クロツバメ観察 (4)	赤枝 一弘 4
おとしふみ	
漱石と虫の本	茨川 虎夫 7
オサムシ二種について	船越 俊平 7
邑久郡長船町でラミーカミキリ	秋山 茂 8
ウラギンシジミの好む色彩	秋山 茂 8
邑久町でモンキアゲハを目撲	大森 豊彦 8
龍の口でミドリヒヨウモン	赤枝 一弘 8
龍の口でナニワトンボとクモガタヒヨウモンを採集	赤枝 一弘 8
採集メモ(方谷-井倉-満奇洞-谷尻-落合-岡山)	広瀬 義躬 9
採集メモ(玉柏-福渡-落合-勝山-湯原)	赤枝 一弘 10
採集メモ(高滝山方面、伯耆大山、鐘乳穴付近)	青野 孝昭 11
編集後記	14

倉敷市福田町産昆虫雑記(1)

船 越 俊 平

かねてから、倉敷市福田町付近の昆虫目録作成を、青野孝昭・小野洋の両氏にすすめられ、多少の努力を払つて来たものの、調査らしい調査もしないまま福田町を離れてしまい、その後、全く手がつけられなくなつた。しかしながら、現在手許にある標本や記録等を、わざかなりともまとめて諸賢の資料に供する事は無益な事でもないと思い立ち、1951年から1954年までの間に得たものを記録しておく。いささか目録とするに足らぬ内容で、文字通りの雑記であるが、何程かの参考になれば幸いである。

なお記述するにあたり便宜上番号を付したが、採集はしたもの現在標本のないもの、採集時の目撃、その他のものには*印を付した。また「すずむし」に発表記録したものも再録した。

I 蝶類

Familia HESPERIIDAE セセリチョウ科

1. *Thoressa varia* Murray コチヤバネセセリ

VIII-?(1952) 古新田： 町全域にわたつて10月頃まで見られる。

* 2. *Polytremis pellucida* Muirrey オオチヤバネセセリ

夏から秋深くまで見られる。石屋谷一帯には多い。

* 3. *Parnara guttat* Bremer et Grey イチモンジセセリ

前種同様町全域で、秋深くまで見られる。

Familia PAPILIONIDAE アゲハチョウ科

4. *Papilio xuthus* Linne アゲハチョウ

春から夏、秋にかけて発生する。

* 5. *Papilio machaon hippocrates* Felder et Felder キアゲハ

幼は少ないが、春から夏に発生する。東部の丘陵帶よりも、町中央部の方が多いようである。

6. *Papilio protenor demetrius* Cramer クロアゲハ

VII-23(1953) 第一福田小学校校庭で超大型の♀を得たことがある。アゲハ同様の発生を見るが、あまり多くない。

* 7. *Papilio bianor debanii* Felder et Felder カラスアゲハ

1953年の夏に石屋谷で目撃したことがある。

* 8. *Graphium sarpedon nipponum* Brunsstorfer アオスジアゲハ

水島常盤町で春から夏によく見られる。しかし町内の他所では、どういうわけか、あまり見たことがない。食草はあちこちにあるのに本種を認め得ないのは筆者の見落しであろうか。

Familia PIERIDAE シロチョウ科

9. *Eurema hecabe* Linne キチョウ

IX-27 (1953) 石屋谷 ; X-19 (1953) 呼松 : 町全城にも春から秋まで発生するが、石屋谷の奥には 11月頃まで見られる。その頃のものは黒色紋のはほとんど消失している。

* 10. *Eurema laeta bethosba* Janson ツマグロキチョウ

用水(三間川)の堤 ; 特に一文字あたり : 元古新田の奥の病院の近くや池の辺りで毎年秋にはかなり採集したものである。

11. *Colias erate poliographus* Motschulsky モンキチョウ

VI-6 (1954) 古新田 ; IX-27 (1953) 水島社宅街 ; 古新田 : 町全城に発生する。南畠松江の海岸の堤防附近にも、かなり見られ、前二種よりその数が多い。

12. *Pieris rapae crucivora* Boisduval モンシロチョウ

VI-6 (1953) ; IX-27 (1953) 古新田 : 冬をのぞいて、いつでも見られる。

* 13. *Pieris melete Menetries* スジグロシロチョウ

前種同様の発生を見るが、全般に數が少なく丘陵帶にかたよつて分布する。

○付記 タマキチョウ (*Anthocharis scolytmus* Butler) はかなり探したが、目撃することすらできなかつた。丘陵帶の食草に注意すれば、發見は不可能ではなさそうである。

Familia LYCAENIDAE シジミチョウ科

14. *Airopala japonica* Murray ムラサキシジミ

VI-16 (1953) ; VIII-21 (1953) ; X-19 (1953) 古新田 : 町内の丘陵帶には普通に産する。

15. *Japonica lutea* Hewitson アカシジミ

VI-6 (1954) 石屋谷 : 次種ウラナミアカシジミに混つて産するが多くない。未だ町内の他の個所では得たことも、目撃したこともない。

16. *Japonica saepestriata* Hewitson ウラナミアカシジミ

VI-6 (1954) ; VI-10 (1953) 石屋谷 : 発生期には多産する。枝をたたくと、一度におびただしい個体が飛び立つの落花の舞うようである。町内の分布は、前種と同様である。

17. *Antigius attila* Bremer ミズイロオナガシジミ

VI-6 (1954) 石屋谷 : あまり多くないが前二種同様の発生をするようである。

* 18. *Ahlbergia ferrea* Butler コツバメ

IV-1 (1952) 早春の呼松で、目撃したことがあり確実に産すると思われる。

19. *Lycaena phlaeas daimio* Seitz ベニシジミ

VI-6 (1954) 水島社宅街 : 本種は町内全域に産する。

20. *Lampides boeticus* Linne ウラナミシジミ

X-19 (1953) 古新田 ; 呼松 : 夏の末から秋深くまで町全城に産するようである。

21. *Zizeeria maha argia* Menetries ヤマトシジミ

VIII-6 (1953) ; IX-27 (1953) 水島社宅街：ベニシジミ等と同様の発生をする。

* 22. *Zizina otis emalina* de L'orza シルビヤシジミ

VIII-1 (1952) 東塚：これは第一福田小学校内で採集し既に報告したものであるが、今後採集される可能性は多分にある。.

23. *Celastrina argiolus ladonides* de L'orza ルリシジミ

VI-6 (1954) 水島社宅街：本種は早春から秋にかけて全般に広く発生する。

24. *Everes argiaedes seitzi* Wnukowsky ツバメシジミ

VI-6 (1954) ; VI-20 (1954) ; VIII-6 (1953) ; IX-27 (1953) 水島社宅街；南畠；古新田：なお町全体に産する。

Familia CURETIDAE ウラギンシジミ科

25. *Curetis acuta paracuta* de Nicéville ウラギンシジミ

X-19 (1953) 呼松：なお古新田一帯にもかなり産する。呼松、広江にも多産するようである。

Familia DANAIDAE マダラチョウ科

* 26. *Oachuga sita niphonica* Moore アサギマダラ

X-18 (1952) 東塚：土着したものではないと思われるが、第一福田小学校の室内に飛来したものを既に報告したが再録しておく。現在までにその後の採集を聞いてない。

Familia NYMPHALIDAE タテハチョウ科

27. *Damora sagana liane* Fruhstorfer メスグロヒヨウモン

X-19 (1953) 呼松：古新田でも目撃したことがある。いずれも雌ばかりである。

* 28. *Neptis aceris intermedia* W.B.Pryer コミスジ

福田でよく見かけたものである。なお調査を続けるならば同属のホシミスジも得られるのではないかと思われる。

29. *Polygonia c-aureum* Linne キタテハ

VIII-6 (1953) 一文字；IX-27 (1953) 水島社宅街：かなり多く発生するようである。

* 30. *Kaniska canace no-japonicum* Siebold ルリタテハ

町内東部の丘陵帶には、あまり多くないが産する。

* 31. *Nymphalis xanthomelas japonica* Stichel ヒオドシチョウ

筆者の弟が中畠で得たことがある。5月頃少ないが発生するものと思われる。

* 32. *Vanessa cardui* Linne ヒメアカタテハ

古新田の丘陵帶頂部で秋にかなり得たことがある。大豆の畑に飛来するのを待つて捕つたものである。

* 33. *Vanessa indica* Herbst アカタテハ

9月になると、町内を飛翔する本種をよく見かける。東塚ではコスモスの花に来たものを得たこともある。

34. *Apatura ilia substituta* Butler コムラサキ

VIII-11 (1952) 水島社宅街：田園地域よりも社宅内に多いのは食草の関係かと思われる。

Familia SATYRIDAE ジヤノメチョウ科

35. *Minois dryas bipunctatus* Motschulsky ジヤノメチョウ

VI-16 (1953) 古新田：町内の他所では未だ見たことがない。

36. *Lethe sicca* Hewitson ヒカゲチョウ

VI-6 (1954) 古新田：丘陵帯周辺にはかなり産する。

* 37. *Neope goschkevitschii* Menetries キマダラヒカゲ

町全域に広く発生する。

38. *Mycalesis francisca perdicio* Hewitson コジヤノメ

IX-27 (1953) 古新田：かなり発生するようである。

以上38種を記録しておく。しかし、なお多くの種類が産することと思われる所以、これを出発点として地元の方の手によって福田町産蝶類の目録が充実されんことを望むものである。

クロツバメ観察(4)

赤枝一弘

発生回数

筆者は本種について3度にわたって述べて来た。そのIでは略生活史、そのIIでは移動性蛹化場所、そのIIIでは飼育中の出来事について述べた。今回は筆者のとぼしい資料で本種の発生回数を考察してみたい。第一表は四年間の観察の総まとめであるが冬期および春期が完全にブランクである。それ以後を見ると7月下旬、8月下旬-9月上旬、9月下旬-10月中旬の3回の大きい発生が認められる。20日間以上にわたる大きいはばを持った発生である。7月下旬の発生の次の世代が1カ月おいて8月下旬に現われ、8月下旬の次の世代が9月下旬に現われる。大体一ヶ月の周期で繰返す思われるがそれが非常にはばを持っているため幼虫等は7月-10月の全期にわたって見られるし、この表においては8月中旬と9月中旬に成虫が見られないが観察すれば少数は見られるのである。しかし個体数が多いのはやはり7月下旬-8月上旬、9月上旬で10月上旬はやや少いようである。56年度の発生が11月の中旬にまでおよんでいるがこれは異常に遅れた発生であり正常ではないと思われるが遅い個体では11月に入つて羽化するものもあると思われる。前に

も書いた通り長野県の資料によると五月上旬、七月中旬、九月下旬の三回発生である。また保育社原色小畠鑑横山光夫によると、五月、六月、八月、となつてゐる。当地においては七月以後がずれて三回の発生になつてゐるものと思われる。同じく藤沢氏によれば五月の発生が一番多いらしいが当地においては第一回あるいは第一、第二回の発生は少いものと思われる。筆者が当地で採取した最も早い記録は6月中旬である。この成虫は多分第二化ではないかと思われる。同じく長野の丹下氏の観察によれば越冬幼虫の採集に於て4月4日にすでに終令幼虫が見られたとある。蛹化一羽化に15日～20日かかりたとしても4月20日～4月25日ごろに最初の羽化になると思われる。(第二表参照)当地はさらに温暖であるからさうに速い事が予想される。この事から考えて7月までに少くとも2化はへつてゐるであろう。年間少くとも五世代はとげている。まあこの問題は春期の資料がそろつてからにしたい。10月下旬～11月にかけて産卵された卵は羽化して2令まで成長して、そのまま枯れた食草(ツメレンゲは花が咲くと枯れる)の中で越冬しよく年の春と共に成長し第一回の発生4月下旬～5月上旬をとげ以後大体一ヶ月の周期で11月まで発生を続けるものと思われる。何分にも資料の不足で(筆者のたいまん)冬期～5月にかけて大きいブランクのため推定が多くなり申訳けないが、7月以後は確実な記録であるから諸兄の何らかの参考になれば幸である。なお本年は自宅のツメレンゲで越冬幼虫が順調に成長しているようであるから来年は春期のブランクはうめる事が出来ると思う。

参考文献

秋から冬にかけてのクロツバメシジミの生態丹下仁、新昆蟲VO1.7, NO.11, 1954.
松本近効に於けるクロツバメシジミの生活史、藤沢勝利、Anthocoris VO1.2, NO.1, 1955.

第二表

クロツバメシジミの蛹化期間

蛹化日	羽化日	期間
1954.9.20	9.30	(10日)
9.22	10.1	(9〃)
9.23	10.3	(11〃)
10.4	10.15	(11〃)
10.4	10.16	(12〃)

大体10日前後となる。

第一表
クロツバメ資料

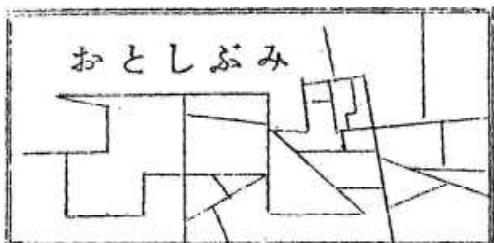
	12—3	4月	5月	6月	7月	上 ⁸ 中月下	上 ⁹ 中月下	上 ¹⁰ 中月下	11月
成虫	1954年				A	AA A	A A	AA AAA	
	55				A		羽	羽羽羽羽	
	56				A•A		A	••••A	
	57			A	羽羽	AA A	A	羽	A••••A
卵	54					E		E E	
	55								
	56						E		
	57					E E	E E	E E	
幼虫	54					L••••L	L•L•L••••L••死		
	55								
	56				L		L•••••L		
	57					L	L••••••••L	L••越冬幼虫	
蛹	54					P	P•••P		
	55								
	56				PPP			P••P	
	57					PPP		P	

羽は飼育羽化したもの

Aは目撃記録

••••はその間連続的に羽化

A・E・L・Pとも各個段を現わしている
のでなく時期現わしているのみ
で個数はもつと多い。



漱石と虫の本

この10月で漱石全集の34巻目が配本されて完結したが、貧乏暇なしでソノ説になりそうだ。その第33巻に漱石山房蔵書目録がのつてるので何げなく通読してみると只一つ次の昆虫学書があるのに気がついた。

Miyake, T. (1913) : Studies on the Mecoptera of Japan. Reprinted from the Journal of the College of Agriculture, Imperial University of Tokyo, Vol. IV, NO. 6.

すなわち、不朽の名著「昆虫学汎論」をかいだ故三宅恒方博士(1880~1921)が大正2年の東大農学部紀要に発表されたシリアゲムシの分類に関する135頁もある大きな論文の別刷であつて、同博士が漱石に贈つたものとおもわれる。書簡集で探がすと大正5年8月24日付の芥川龍之介、久米正雄の両名あてに出した手紙には「久米君の絵のうまいのには驚いた。成程あれなら三宅恒方さんの絵をくさず筈です。僕にいつか書いて貰れませんか。……」とある。三宅博士(丁夢闇人の号あり)の水彩画が専門家はだしのすこぶる立派な作品であつたことは先頭でた「昆虫」の日本昆虫学会創立40周年記念号にかゝれた素木得一先生の「今はなき日本の昆虫学者と私」という文章のなかでも述べておられる。

漱石は前記の芥川らにおくつた手紙と同じ日

に三宅博士夫人で後日間秀作家として有名になつた三宅安子あての手紙をみると「今日は暑いですね。原稿は二つとも御返し致します。評は一の仕舞に書いてあります。……」というのがある。文壇にでるまえの彼女は自分の書いた文章を持つて当時日を定めて駿々漱石の批評を仰ぎに行つていたのであつた。三宅やす子全集第4巻(昭和7年)をひもどけば彼女の「夏目先生の印象」という想出がのつている。

三宅博士が寄贈した該論文は従来単に記述的にすぎなかつた分類学に系統的概念を導入した極めて独創的なもので、当時世界的に注目された論文であつたのであるが、「門を異にする漱石が果して眼を通したかどうかは知る由もないけれども彼の蔵書のなかには他に生物学の本が若干あり、例えばダーウィンの「種の起源」、ホワイトの「ソルボーンの博物学」、トムソンの「動物の生活」などがあるし、マルクスの「資本論」もその書架を飾っている。

(茨川虎夫)

オサムシ二種について

下記の標本を所持しているので報告しておく。なお青野氏より標本の寄贈を受け、かつ種々御教示を得たので記して感謝の意を表する。

(1) *Campelita chinense Kirby*

エゾカタヒロオサムシ

1953 IX 14 倉敷市水島栄町 船越採集

1957 IV 29 紀述市瀬渓 青野採集

(2) *Apotomopterus yaconinus Bates*

ヤコンオサムシ

1954 VI 20 倉敷市黒田 船越採集

なおエゾカタビロホサムシは、西大寺(1954)で、また、ヤコンオサムシは、タコラ山(1952)、金山(1952)、熊山(1953)での記録が「すずむし」に記載されていふので参考までに併記しておく。

(船越俊平)

邑久郡長船町で

ラミーカミキリ

1957年6月28日邑久郡長船町福岡において歩行中に、農家の垣根にしてあるムクゲに *Paraglenea fortunei* Saunders ラミーカミキリ1♂を発見して採集致しました。後、充分に調べてみましたが遂に1頭だけしか手に入れることは出来ませんでした。しかし、ムクゲの横息状態から察しますと、約6mm長に分布して居ますので今後の採集は楽であると信じます。

(秋山茂)

ウラギンシジミの好む色彩

小生は本年の8月4日に熊山山麓の大龍山にて同好者と採集を試みた折に *Curetis acuta paracuta* Macayille ウラギンシジミ1♂がcycling tour客の白桃色のサドルカバーに静止しているのを見とどけた。まだ新品の自転車らしく人目にも目立つ色でした。当日は曇天ではありましたがサドルカバーには陽が照つて居りました。また本種は同地においては少なく、当日も3♂を目撃したにすぎませんでした。他の蝶もその周辺を飛行していたにも拘わらず本種だけが静止していたという事は意外であると思うので報告致して皆様の参考としたい。

(秋山茂)

邑久町でモンキアグハを目撃

今年の夏休みは富士山と道後山、帝釈峠へ旅行した。しかし目ぼしいものはとれなかつた。その後で盲腸炎の手術をしたので期待していた鷹山などへは行けなかつた。

夏休みで帰省した際、邑久郡邑久町大雄山(175m)でモンキアグハ二頭を目撃した。はじめてなので報告しておく。

(大森豊彦)

竜の口でミドリヒヨウモン

1957.6.15 26. 本種は普通種であるが小生の目録では未記録種である。とにかく西大寺地方のヒヨウモン類の貧弱さは相当なもので当日も本種の他にヒヨウモン類は見られなかつた。西大寺産の蝶、61種になる。

(赤枝一弘)

竜の口でナニワトンボ♂

クモガタヒヨウモンを採集

筆者は本年10月14日二度目の竜の口訪問を行つた。当地は現在は岡山市である。昆虫相は蝶よりも蜻蛉に期待出来ると思う。ナニワトンボ *Sympetrum gracile* Okuma 1♂・1頭しか採集出来なかつたので個体数は少いであろう。本種は児島半島の金甲山等に多産、また安東氏の目録にも五ヶ所の産地が挙げられているが産地は限定されている。また当日クモガタヒヨウモンの大破個体を一頭採集、これで西大寺産の蝶は62種となつた。

(赤枝一弘)

採集メモ

廣瀬義躬

さしたる目的を持たず、足の向くまま、それこそ行きあたりばつたりに、県の中部を歩こうという風変りな旅行を志し、この夏(1957)、友人と二人3日間程あちこち歩きまわった。従つて虫を採るのも目的に入れていたから、ネットも携帯せず、又虫に注意を向ける暇はなかつたのだが、蝶については、県の蝶相研究に資する事実を得たと思われるので、簡単に記しておきたい。

第1日(8月7日) 井倉

午後から時々雨の止む間を縫つてのろのろと歩く。道路上の水たまりにモンキアゲハ(殆んどが新鮮)が少からず来集している。これを帽子でかぶせて新鮮なままで採集する。以下の蝶の採集はすべて、この帽子採集と手づかみによる。道傍のクサギの花上や葉上にも本種が憩つており、目撃するPapilio は殆んどが本種、時々カラスアゲハ、クロアゲハが混じつて吸水していた。鬼女洞の前でアオバセセリ1♀をとる。

第2日(8月8日) 井倉—草間—羅生門—馬堀—湯川—寺内—満奇洞(楓の穴)—一本村—有立津—蔵内—皆部—烟ヶ丘—谷尻

井倉—羅生門間はバスを利用する。この間はアベマキが多く、草原状の箇所も見られて、なかなか良いと思ったが、ここは既に青野氏等により紹介済み。羅生門ではスミナガシ1♂を採集する。これは吸水していたのでもなく、又樹液に来ていたのでもなく、ネットを持っていても採れたかどうか疑問だが、この敏捷な種も例の帽子採集で簡単に手中のものとなつた。この採集方法は登山帽など(底の深いものが良い)を静止している個体に狙いをつけて、上方或は斜方から投げるもので、多少の技術を伴うのは致し方ないが、用い方によつては相当の効果を挙げる。但し地面などに止つたものに限定されるのが難か。

ここでアオバセセリも1頭目撃する。

満奇洞(楓の穴)の難航が、記録良く、なかなかよくまとまつて一寸した洞窟である。しかし洞窟性昆虫を採る暇はなかつた。有立津付近で樹液に来集しているオオムラサキ数頭を発見、1♂ 1♀を手づかみにする。但し破損したものばかりで、完全なものは1頭見たのみ、有立津の高原状の臺地は爽快極まりなし、全く別天地の感があつた。採集には皆部以西が良い。

第3日(8月9日) 谷尻—水田—落合—西川—岡山

水田—落合・西川—岡山の両区間はバス利用。

落合—西川間では旭川ダムの堤を歩いたわけだが、何分にも炎天下で蝶の姿は殆どなく、時折カラスアゲハ、クロアゲハが路上に吸水している程度。採集するには対岸の方が良いように思つた。



採集メモ

赤枝一弘

友人二人と自転車で瀬山まで行こうと話が決り 18日岡山を出発したが台風第七号の影響のため進めなくなり湯原までしか行けなかつた。したがつて採集の方も芳ばしくなかつた。

8月18日 玉柏(7.30) → 福渡(10.30) → 落合(3.30) → 勝山(5.00)
化生寺へ一泊。丁度岡大サツカーペット合宿中、途中、カラスアゲハ、クロアゲハ、キチョウ、ヒメウラナミジャノメ等が多かつた。

8月19日 勝山 → 湯原

テントを張ると急に天候が悪くなる。風が強い。テント付近でちよつと採集。クロヒカゲ多数、ヒカゲチョウ、カラスアゲハ、ミンミンゼミ、トラアシジミ、ヘリグロチヤバネセセリ多数、他普通種。

8月20日

いよいよ風が強くなる。風当りの強い所では歩けない。小石が飛んでいる。採集品、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、オオムラサキ(目撃)、スジクワガタ、コオニヤンマ、他にミヤマアカネは多かつた。

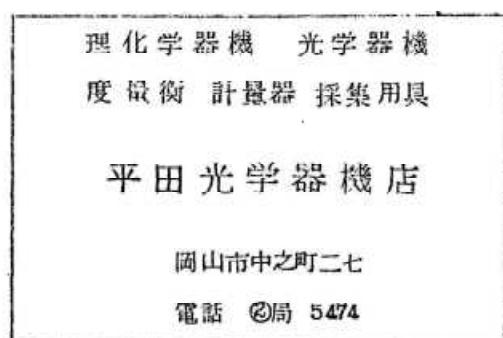
8月21日

どうにもならぬので風の中を勝山へ下り再び化生寺へ泊る。

8月22日

寺の境内をモンキアゲハが飛んでいた。それから神庭へ行つて見る。目星いものは居なかつた。サカハチチョウ、コチヤバネセセリ、ヘリグロチヤバネセセリ、カラスアゲハ等。

勝山(11.30) → 西六寺(10.30)



採集メモ

青野孝昭

1. 高滝山方面

昭和町(下倉橋—楓—新田—千切—影—楓—下倉橋)

1957年6月23日、昼後晴、単独行。美袋駅に下車、下倉橋から楓を通つて高滝山北側谷筋を西進する。ミドリンジミ類は最盛期と思われるのに予想外で、コナラの樹からミズイロオナガを追い出す程度。キチョウは馬鹿に多い。5月下旬に出掛つていたアゲハ類も今はその姿を殆んど認めず、妙に傷んだクロアゲハ♀がコクサギへ飛来し、地上50cm位の枝を好んで産卵するのを僅かに見る。高滝山頂の丁度真北1kmばかりに新田方面への道が別れ、コースを北にとると、ここからアカシジミ、ヒヨウモン類によく出合う。山道は斜面を登り、千切の山頂付近を通る。山頂の北側に降り始めて間もなく、満開の花をつけたサンゴジュが現われ、多枚の各種ヒヨウモン類とダイミヨウセセリ、およびハナアブ類の群を認める。採集には都合が良く、ネットを振る度に舞上るヒヨウモン類の羽ばたきとハナアブ類の羽音はちよつとしたもの。山を降り切ると影部落、高梁川の堤防に出るとシルビアシジミとモンキチョウが少し。川沿いに楓部落へ通ずる道を歩く。ヒメキマダラセセリ♀は既に破損し、♀が少數発生しており、現在はヘリグロチバネセセリの発生最盛期。この道にはヤマイモが多くダイミヨウセセリ幼虫をその巣をたよりにして得る。次に今日のコースでの採集蝶を記録してみると、ダイミヨウセセリ♀ ex ヘリグロチバネセセリ♂ ex. ヒメキマダラセセリ♀ 4♀ 1♀, キマダラセセリ♂ ex. オオチバネセセリ♂ ex. キチョウ♀ 5 4♀, モンシロチョウ♀, スジグロシロチョウ♀ 4♀ 2♀, アカシジミ 3 ex. ミズイロオナガシジミ 5ex. オオミドリンジミ 3♀, シルビアシジミ 6♀, テングチョウ 1♀, ウラギンスジヒヨウモン♀ 1♀, ミドリヒヨウモン♀ 2♀, クモガタヒヨウモン♀, メスグロヒヨウモン♀ 1♀, ウラギンヒヨウモン♂ 1♀, イチモンジチョウ 1♀, コミスジ 1♀, キタテハ 1♀, ゴマダラセセリ♀, の 2種 93 ex. 目撃したものはアゲハ、クロアゲハ、モンキチョウ、ベニシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミ、ルリタテハ、アカタテハ、ヒメウラナミジヤノメ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、キマダラヒカゲ、コジヤノメの13種。その他、トラハナムグリ、ヤハズカミキリ、ミドリカミキリ、エグリトラカミキリ、サイロトラカミキリ、ホタルカミキリ等を得る。

2. 伯耆大山

1957年7月21日、折水原で午後1時頃バスを降り、ガスに坂巻かれながら横手道迄登つてみる。その間ヒメヒカゲ 4 3♀ 10♀, ウスイロヒヨウモンモドキ 3♂ 2♀, コキマダラセセリ 1♂ 2♀を得、ウラギンヒヨウモン、ベニシジミを多数とキアゲハ 2 ex. を目撃。

横手道ではヒヨウモンモドキ 1♀, サカハチョウ 1♀, ウラギンスジヒヨウモン 1♀を得。

イチモジセセリ，キチヨウ，スジグロシロチョウ，ウラクロシジミ，ヒメシジミ，ミドリヒヨウモン，ウラギンヒヨウモン，アサマイチモンジを目撃する。

大山寺部落のとやま旅館で一服，夕方，山の家附近にてヒメキマダラセセリ 2 ex. ウラキンシジミ 1 ♀, トラフシジミ 5 ex. ゴインシジミ 1 ex. ウラギンヒヨウモン 2 ♀を得。ショウザミドリシジミ，ベニシジミ，キマダラヒカゲを目撃する。

3. 鐘乳穴付近

フランスの世界洞穴学会幹事アンリ・コアフエー博士および京都大学の上野益三教授を中心とする日仏合同洞穴学術探検が本年8月岡山県の洞穴でも決行されることになり，中井洞，宇山洞，満奇洞，蝙蝠洞が選ばれた。しかし、いずれも阿哲台のみで、上房台にまでおよばなかつた為、岡山博物同好会の行事として佐藤清明先生指導のもと、小野洋，近藤光宏，筆者の三名が8月5, 6, 7日の3日間に亘って上房台の鐘乳穴を調査、若干の洞穴昆虫を得たが、採集品は目下整理中。その際、付近の野外で観察、採集した蝶類について記す。

鐘乳穴は高梁駅から中鉄バスで1時間あまり北上した上房町井殿にあり、停留所から洞穴迄は300m程に過ぎないが、バスの便は1日2往復しかなく、決して交通の便利の良いところとは言えない。

1957年8月5日、高梁駅発9時30分のバスで出発。佐藤先生、近藤氏と3名。小野氏はこの日遅れて到着。臥牛山の西麓、野猿で名高い自然動物園をチラリとかいざ見ながらバスは北上。木野山から東北方に入つて行く。佐与谷入口のところで路上に下りて吸水中の黒いアゲハ類集団を見る。10時50分鐘乳穴着。

洞穴管理者岩本氏の出迎えを受け、キャンプ地を選定して設営。昼食後、岩本氏の案内により第1回入洞、洞内温度9°Cは日本有数の低温ぶり。奥行200mでその間洞穴は変化に富み巨大な石筍と鐘乳石は他洞に比を見ないものとか。洞穴の外に出ると入口付近にビツチユウヒカゲワラヒがあるが、これは1930年に新種として記載され、ここ以外では福井県に採集例があるのみだと。

佐藤先生は15時20分のバスで引き上げ後に2人残る。16時から筆者のみ付近の蝶類を探ぐる。採集した蝶はダイミヨウセセリ 4 ex. コチヤバネセセリ 1 ♀, ホソバセセリ 2 ex. オナガアゲハ 1 ♂, カラスアゲハ 1 ♀, キチョウ 1 ♂ & ♀, クモガタヒヨウモン 1 ♂, コミスジ 1 ♂ 1 ♀, ルリタテハ 1 ex. スミナガシ 1 ♂, オオムラサキ 1 ♀, クロヒカゲ 2 ♂, クロヒカゲモドキ 1 ex. コジヤノメ 1 ♂ の14種22頭。

ベースキャンプに帰つてみると小野氏到着。茶道から鐘乳穴まで、バス便のない為、山道を歩いてグロツキーの様子。夜、土地の青年と交歓。

8月6日、第2回、第3回入洞、その間、暇をみて小野氏と付近の昆虫を探ぐる。蝶で昨日以外に新しく得た種はスジグロシロチョウ 1 ♂, ウラギンヒヨウモン 1 ♀, ミドリヒヨウモン 1 ♂ 1 ♀, イチモジシヨウ 1 ♂, アサマイチモジ 1 ♀ (小野氏採), キマダラヒカゲ 1 ♂, ジヤノメチヨウ 1 ♂, ヒメジヤノメ 1 ♀, の8種、他にスジボソヤマキシヨウ 1 ♀, ヒメウラナミジヤノメも目

筆。

夜、雨。キャンプ内に閉じこめられる。

8月7日。雨はあがらない。第4回入洞。食事はクラッカーを主食とする。15時20分のバスで引きあげる。バスを待つ間、小雨について飛翔するモンキアゲハを目撃。

以上、上房町井殿で25種の蝶を認めたわけだが、このうちクロヒカゲモドキは県内では採集例の少いものに属するだろう。現在手元にあるDataの正確なものには久米郡大井西(1930)、御津郡本宮山、♂1♀・8.VII.1939・平田(1939)、川上郡松原村春木、1ex. 25.VII.1951・近藤(1951)があるが個体数は少いようだ。オオムラサキは3日間で♂4♀が採られたがいずれも大破、夕方、アベマキ、ニレの樹液を求めて飛来したものばかり。スミナガシは新鮮だった。



昆虫・植物採集用具

理 化 学 器 機

岡山市西中山下(柳川交叉点東)

永瀬教育堂

電話 ②4725番

テ 理 生物・地学標本模型
一 化 昆虫採集用具
ブ 学 テレビ・ラジオ・真空管
コ 器 島津製作所岡山県代理店
ダ 器
一 機

サ 力 工 商 会

倉敷市栄町(赤木病院西)電話913番

昆虫の月刊雑誌

北隆館 発行

新昆虫を読みましょう!

倉敷市阿知町TEL.126 愛文社書店へ

本会宛寄贈誌、論文目録

1. A THE PITHECOPS FROM THE TSUSHIMA ISLANDS, JAPAN : 1957. 白水隆
2. TWO NEW SUBSPECIES OF EREBIA NIPHONICA JANSON FROM HONSHU, JAPAN : 1957.
白水隆.
3. THREE NEW SPECIES OF THE ANGULOSA-GROUP OF THE GENUS DACTYLISPA WEISE
FROM JAPAN, MANCHURIA AND FORMOSA : 1957. 白水隆
4. SYSTEMATIC POSITION OF THE GENUS CURETTIS : 1957. 白水隆
5. CHRYSOMELID-BEETLES FROM THE TSUSHIMA ISLAND, JAPAN : 1957. 白水隆
6. AN UNRECORDED THECLINE BUTTERFLY FROM FORMOSA : 1957. 白水隆.
7. 分布と種の問題 : 1957. 白水隆.
8. INSECT, 8(2), P.24 : 1957. 昆虫愛好会.
9. 北九州の昆虫, 4(1), P.28, : 1957. 北九州昆虫趣味の会.
10. 北九州の昆虫, 4(2), P.26, : 1957. 北九州昆虫趣味の会.

*** 編集後記 ***
 *** 編集後記 ***
 *** 編集後記 ***

虫の声もいつしか消えて、秋も終りを告げる頃となりました。その後会員の皆様には如何がお過しでしょうか。本号は船越氏の倉敷市福田町産昆虫雑記(1)を始め、赤枝氏のクロツバメシジミに関する第4報外「おとしみ」数編。採集メモは三氏により県中北部の概況が次第に明るみの方向にあり、この方面の昆虫相の究明が大いに期待されます。今回も編集者の都合で発刊を延引して洵に申訳ございません。不謹な仕事ですので、不行届の点があるかと存じますが、御寛容の程お願い致します。ここに本号を送るに当たり今後共尚一層の御協力あらんことを切望致します。

(編集者)

すずむし 第7巻第3号	昭和32年11月30日 印刷 昭和32年11月30日 発行
編集兼 発行者	岡山大学大原農業生物研究所 害虫部第2研究室内
倉敷昆虫同好会	
印刷所	岡山市内山下三〇ノ五
	鳥城謙写堂